

10月の植物（きのこ編）

ツキヨタケ（ツキヨタケ科）

学名： *Omphalotus japonicus* (Kawam.) Kirchm. & O.K. Mill.

ツキヨタケ（月夜茸）は夏から秋にかけてブナなど広葉樹の枯れ木や倒木に重なり合うように出てくる腐生菌です。佐賀県では主に10月上旬～中旬頃、脊振山や九千部山のブナ林で出会うことができます。シイタケやヒラタケなどの食用きのこに似ているため、中毒事故が絶えません。厚生労働省の報告によると、平成26（2014）年～令和5（2023）年の10年間に全国で117件、343人の食中毒が発生したとのこと。見分けるポイントは、ひだの付け根との境につばのような隆起帯があること。柄を縦に裂くと付け根に黒いシミがあるのも特徴ですが、しばしばシミがない個体もあるので注意が必要です。

その名のとおり、暗闇ではひだが青白く発光します。これはルシフェラーゼという酵素の反応によるもので、ホタルの発光の仕組みと同じです。しかしなぜ光るのでしょうか？不思議ですよ…。真っ暗な押し入れの中で見てみると、すごく弱い光ですが確かに光っていました。実際に夜の森で光っているところを見てみたいものです。

（文・写真 鶴田めぐみ）



▲2023年10月9日 脊振山（神崎市脊振町）にて撮影

【参考】今関六也，大谷吉雄，本郷次雄 編『増補改訂新版 山溪カラー名鑑 日本のきのこ』（2011年）
根田仁，伊沢正名『たのしい自然観察きのこ博士入門』（2006年）